

数学科(特別支援)学習指導案

学 級：3年 組

場 所：年 組教室

授業者：

1. 単元名 およその数

2. 本時のねらい

校外学習でもっていききたいお菓子の商品を広告から選択し、指定された方法(およその数と実際の数)で合計金額を計算して、およその数の方が速く、簡単に計算できるよさが分かる。

3. 本時の展開 (第4時/全5時間)

過程	学習活動	研究との関わり
導入	<p>1. 使用する教材を提示し、本時の学習の見通しを持つ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>商品を選んで合計金額を2つの方法(およその数と実際の数)で計算し、予算内に収まっているかを確認し、2つの方法について考えよう。</p> </div>	<p>4. 研究内容1</p> <p>合計金額を2つの方法で求め、ペアで合計金額を確かめる。予算より合計金額が多い場合は、修正する。</p>
展開	<p>2. 問題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の順序を確かめる。 ①決められた予算(500円、商品数は6点までとする)をもとにして、広告の中から持っていきたい商品を選ぶ。 ②商品の値段を実際の数とおよその数で記録し、合計金額を求める。(一の位を繰り上げた数) ③合計金額が予算を超える場合は、買う商品を修正して、予算内に収める。 ④2つの方法について交流をする。 <p>3. 2人ペアまたは3人で商品を選ぶ。</p> <p>4. 個人で計算する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>個別の支援</p> <p>A プリントに表や式を書かせて、2つの方法で筆算計算することを確認し、できたことを認める。</p> <p>B プリントに表や式を書かせ、電卓の使い方を確認しそれを使って合計金額の計算をさせる。</p> <p>C プリントに表や式を書かせ、2つの方法で計算できたことを認め、計算の仕方を比べさせる。</p> <p>D プリントに表や式を書かせ、2つの方法で計算していくことを確かめて、自信をもって計算させる。</p> <p>E プリントの学習内容について確認し、一つ一つ確かめて認め、自信をもたせる。</p> </div>	<p>5. 研究内容1</p> <p>ペア等で合計金額を求めた2つの方法について交流することで、違いを学びに結びつける。</p> <p>7. 研究内容2</p> <p>練習問題に取り組むことで、およその数を使うよさを実感させる。</p>
終末	<p>5. 結果をもとにペアで交流する。</p> <p>6. 全体で確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・およその数と実際の数の計算を比べて、およその数の方がはやく計算できるよさを確認する。 <p>7. 練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・およその数を使って、合計を求める練習をする。 <p>8. 本時の振り返りと次時への見通しをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>およその数で計算すると簡単に計算できる。次の学習では、予算や買う商品数を多くして、予算内に収まるよう買い物計画を立てよう。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><u>評価規準(見方・考え方)</u></p> <p>A問題が加法の場面であることが分かり、合計金額を自分で求め、2つの方法について考えることができる。</p> <p>B問題が加法の場面であることが分かり、電卓を使って合計金額を計算することができる。</p> <p>C問題が加法の場面であることが分かり、合計金額をおよその数で計算することのよさが分かる。</p> <p>D問題が加法の場面であることが分かり、筆算で合計金額を計算することができる。</p> <p>E問題が加法の場面であることが分かり、学習に参加し、合計金額を求めようとしている。</p> <p>【プリント】</p> </div>